

ひと まち 輝く  
キラリ  
kirari

箕面市立みのお市民活動センター  
(指定管理者:(特活)市民活動フォーラムみのお)  
〒562-0013 箕面市坊島4-5-20  
みのおキューズモールWEST1-2F  
TEL. 072-720-3386 FAX. 072-720-3387  
<http://www.shimink.jp/>

Vol. 3

平成30年(2018年)9月発行



トピック

笑ろてるパパがええやん！  
主夫から見た夫婦・育児・地域のこと  
ボランティアは  
可能性が広がるチャンス

NPO法人 ファザーリング・ジャパン関西  
和田憲明さん



# 笑ろてるパパがええやん！ 主夫から見た夫婦・育児・地域のこと

イクメンという言葉が広がっても、まだまだ「家事育児は母親の役割」という風潮が強い昨今。「NPO法人ファザーリング・ジャパン関西」初代理事長であり、書籍やブログを通して、主夫業、子育て、家族のあり方、地域などのテーマで発信されている和田憲明さんに、お話をお聞きしました。

## まず、和田さんが主夫になったきっかけをお聞かせいただけますか？

15年前に長女が誕生した時、私はテレビプロダクションの仕事で週の半分は家にいない生活でした。妻はずっと看護師をしており三交代で夜勤もある仕事。そんな中でどうやって産まれた子を育てようかと相談しました。仕事に意欲を燃やしている妻はこのまま続けたい、私は仕事よりも育児がしたい。夫婦のニーズが一致した結果、私が仕事を辞めて専業主夫になりました。

## ご自身が主夫になられた時は、ロールモデルのような存在はありましたか？

自分が主夫を始めた頃、お手本になるようなロールモデルはいなくて孤独を感じていました。そんな時、「NPO法人ファザーリング・ジャパン」※という団体の存在を知りました。子育てに積極的なパパ像に触れ、父親の子育てに価値があるということを承認してくれたのがこの団体でした。そこで関西でも2010年に「ファザーリング・ジャパン関西」を立ち上げ、パパ仲間と一緒に講座や勉強会、ブログでの情報発信をしてきました。合言葉は「笑ろてるパパがええやん」。まずは日々をできるだけ笑って過ごすこと。でも笑えないときもある。そんなときに「また笑いたい」という希望を持つこと。ぐるぐる同じところを回っているように思える日々のサイクルの中でも、少しずつ子どもは成長していくし、

夫婦だって、夫婦喧嘩も上手くなっていくはず。今いろいろな子育てノウハウが世にあふれ、子育てのハードルが上がっているように思います。まずは今の自分を笑って肯定してほしいです。



## ブログやイベントだけでなく、本も発行されていますね。

本を発行しようと思った動機は3つあって、1つめは、主夫として子育てする中で感じたことを忘れないための記録です。2つめは、主夫はもちろん、お父さんの家事育児もまだまだ珍しいので、もっとハードルを下げたいという思いがあります。「主夫といっても現実はこのなもんやで。料理のだしは別に粉末でもいいし、いろいろ完璧でなくてもいい」という姿を見せられれば。実は2016年に電子書籍版を出した時は、パパよりママからの受けが良かったです。「読んで気持ちが楽になった」という声をたくさんもらいました。直接言葉で言われてなくても、「母親はこうあるべき」という社会の空気圧のようなものを感じている人は多いのではないかなと思います。なので、3つ目の動機は、そういうママの気持ちが楽になればいいなと。

## 近年はご家族のことだけではなく、子ども会やPTA活動への参加についても発信されていますね。

PTAはまだまだほとんどが女性で、男性にとって入りづらい雰囲気があるかもしれないですが、入ってみると結構歓迎してもらえて、自分の役割を見つけられれば楽しいです。そういったことも知ってもらって、パパの地域参加のハードルも下げていきたいですね。

屈託のない笑顔が印象的な和田さん。ご自身がファザーリング・ジャパンと出会って「これでいいんだ」と思えたように、和田さんの存在や言葉と出会って気持ちが楽になる人も多いと思います。多様なモデルが地域の中に増えていくことで、「こうあるべき」という空気からすこしずつ自由になっていくといいですね。

※ファザーリング・ジャパン  
NPO法人ファザーリング・ジャパンは、「Fathering(父親であることを楽しもう)」の理解・浸透を目的として2006年に設立されたNPO法人。



## 和田憲明さん Information

1974生まれ。家族は看護師の妻、2003年生まれの子供2人、2007年生まれの子供2人。大阪府箕面市在住。2004年4月、子育てに専念するため8年間勤めたテレビプロダクションを辞し専業主夫になる。保育士資格を取得し、主夫業をしながらみのおファミリー・サポート・センターアドバイザー、NPO法人ファザーリング・ジャパン関西理事長として活動。2017年、くじら保育園園長に就任、2018年から大塚わくわく園副園長。趣味はSF・特撮・模型。特技は手品。

## 出版物・ブログ

- 『主夫業のススメ 家族のカチを柔軟にするコラム55』
- 『続・主夫業のススメ 夫婦間の橋渡しをするコラム44』(電子書籍のみ)
- 『続々・主夫業のススメ パパの子育てを上機嫌にするコラム45』(電子書籍のみ)
- 『オタク主夫、PTA会長になる パパと世間をつなぐコラム48』(電子書籍のみ)
- ブログ『マジックパパの朝イチ話』

# ボランティアは可能性が広がるチャンス



石田達郎さん

## ■きっかけは日頃の活動から

ある日、箕面東高校から、障害を持つ生徒へのサポートがなかなか見つからないのでなたかを紹介して頂きたいという依頼がみのお市民活動センターに入りました。この依頼を受けて、箕面ホテルを守る会の代表でもある石田さんが名乗り出てくださいました。

長年高校の教師を務めてきた石田さんは、授業以外のことで生徒たちの役に立ちたいと思っていたこともあり、退職後高校の非常勤講師となり時間の余裕ができたのを機に、2016年大阪府の人材バンクに登録。箕面東高校の車イス等のヘルパーのボランティア募集につながったのでした。ホテルを守る会の活動の中で日頃からお世話になっているセンターのスタッフから声をかけられたことも背中を押す大きな要因だったそうです。

## ■改めて知ったコミュニケーションの大切さ

石田さんは、2016年度後期に1年生の男子をヘルパーとしてサポートされました。最初、障害を持つ生徒さんと会話することは難しいだろうと思っていたのですが、思いのほか生徒さんとのコミュニケーションがとれたことは驚きだったと言います。その体験を通して、ヘルプを必要とする生徒のための研修がいかに重要かと再確認したそうです。そして、身体に障害を持っていてもコミュニケーションが取れば社会参加は可能であることを改めて感じたそうです。また、看護師さんや同じヘルパーさんとお会いしたことも大きかったとおっしゃいます。

## ■自分の可能性が広がるチャンス

「現在、非常勤講師として、障害を持つ生徒が授業を受けるときのサポートを行っています。休み時間は、医療的ケアを行うナースエイドという控え室にいて、専門の学校看護師のかたのお手伝いなどもしています。」とおっしゃる石田さん。「ボランティアをすることは誰かの役に立つことはもちろんですが、自分の可能性が広がるチャンスでもあります。」と熱心に語る石田さんは、最後に「障害のあるなしに関わらずコミュニケーション力をつけることは誰でも可能で、その力を養うことが自立への近道であることを痛感しました。この経験が環境講座など会の活動にも活かされたことは大きな収穫でした。」と言葉を結びました。



## 石田達郎さん Information

高校教師を務めながら、2002年に「箕面ホテルを守る会」を立ち上げ、現在も代表として箕面のホテルとホテルの棲む環境を守る活動をしている。現在は不登校の子どもたちの支援の一環で、自主制作映画「Challenged～ある不登校の物語～」の制作メンバーに加わり、来年3月の公開をめざして活動中。

# promo

広報 promo 検索  
記事はウェブサイトですぐ掲載。

NPO広報サポーターpromo(プロモ)は、本誌発行団体の広報サポーターが地域のNPOの活動現場を取材レポートしています。  
<http://promo.minoh-npo.com/about.html>



## 夢の実支援金公開 プレゼンテーション

6月30日、「2018年度・夢の実支援金」公開プレゼンテーションに行きました。夢の実支援金とは、みのお市民活動センターが、地域課題に取り組む市民活動を応援する目的で、箕面市内のボランティア、NPO、自治会などの非営利団体が実施する公益的活動に交付する助成金で、交付団体は希望するとオプションで専門家のコンサルティングも受けられます。今回の公開プレゼンテーションは15団体。バリアフリーコンサート、こども食堂、PTA応援、ふれあい農園、集会所を活用した地域コミュニティ再編など様々な活動について、スライドで見せる、オペラを歌う、小道具を使うなど創意工夫の発表がありました。審査員の質疑応答は疑問点の確認に加えて改善の助言もあり勉強になりました。今回の発表を聞き終えた感想としては、ちょっと注意してみれば、自分の身近には



多種多様な社会的課題があり、それを解決しようとする人たちがいる。特別何かに優れた人が特別なことをするのはなく、老若男女も問わず、誰もが自分たちの力で課題解決に取り組んでいる。私も身近な社会にちゃんと目を向けていきたいと思いました。

## 夢の実支援金 (みのお市民活動支援金) Information

交付結果のご案内 みのお市民活動センターホームページ  
「みのお市民活動支援金」バナーをクリック  
HP <http://www.shimink.jp/>

## インフォメーション

### 阪大外国語学部×みのお市民活動センター マンスリー多文化サロン 2018年10月スタート！

2020年度開業予定と間近に迫った北大阪急行の延伸。  
みのお市民活動センターのある「かやの中央」に「箕面萱野駅」が、1つ手前の箕面市船場には「箕面船場阪大前駅」ができます。  
2021年度の大阪大学箕面キャンパスの移転を控え、みのお市民活動センターを会場に2018年10月から「マンスリー多文化サロン」がスタートします。  
大阪大学外国語学部の先生が講師となり、諸外国・地域の文化や生活などを紹介していただき、参加者の皆様と交流します。

阪大外国語学部×みのお市民活動センター マンスリー多文化サロン  
(時間) 19:00~20:30 (場所) みのお市民活動センター  
(参加費) 300円 (教材費・飲み物代等)

- 〈第1回〉10月18日(木) 「遠くて近き」仲  
—東西ユーラシアを結んだ日本とスウェーデンの関係史
- 〈第2回〉11月15日(木) 南スーダンってどんなところ?—日常生活をのぞいてみよう—
- 〈第3回〉12月20日(木) 中国から注がれる熱いまなざし  
—インバウンドツーリズムの可能性について—
- 〈第4回〉1月17日(木) ブラジルの社会と文化はどのように形成されてきたのか
- 〈第5回〉2月21日(木) イラン式結婚式
- 〈第6回〉3月21日(木・祝) イタリア~美食の旅

それぞれの国・地域にちなんだお茶やお菓子なども予定されています。  
申込みは、各開催月1日から大阪大学外国語学部 (TEL 072-730-5013) まで。

## Q&A

## クイズコーナー

市民活動やまちづくりで使われる用語に関するクイズです。  
本誌の記事をよく読めばヒントがあるかも？

第1問 ある年老いた博士が、息子に「実験の手伝いをしてほしい」とお願いしている。しかし息子の父親はそれに反対している。3人の家族関係は？

第2問 「男は仕事、女は家事育児」「飛行機のパイロットは男性、客室乗務員は女性」といったように、男女の役割についての固定的な概念や偏見のことを「○○○バイアス」という

- ①アジェンダ ②ワンダー ③ジェンダー ④セクハラ

第1問 答え「孫の父(おじいちゃん)と孫(お孫ちゃん)の関係は？」  
第2問 答え「社会的・文化的バイアス」は、偏見・差別の固定概念のこと。例として「男は仕事、女は家事育児」という性別役割分業論や「飛行機のパイロットは男性、客室乗務員は女性」という職業性別定型などがある。

## 市民活動 フォーラム みのお

みのお市民活動センターを  
管理運営するNPO法人です。  
様々な課題に取り組む  
市民活動の応援をしています！

### センターではこんなサービスを提供しています！

誰でも使える…印刷機、コピー機、貸会議室等  
市民活動団体が使える…年登録制：

事務ブース(貸事務所機能)、貸倉庫

### 団体のお困りごとに答えます！

活動支援「夢の実支援金」…団体の立上げ、事業の拡充を資金面で応援します。

団体の運営課題の解決…事務力、広報力のスキルアップ講座を開催しています。

その他ホームページ、SNSでさまざまな情報発信をしています。

### 社会課題に取り組んでいる活動をアピールしています！

市民活動の紹介や被災地復興支援のイベント、市民社会講座やフォーラムを開催しています。

### 何かしたい！役立てたい！という思いに答えます！

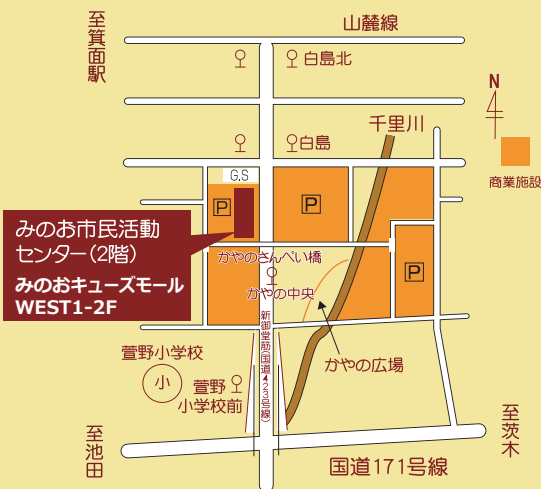
ボランティア情報サイト v-info…ボランティア情報を発信しています。

NPO広報サポーター promo…団体の取材を通してNPOの活動を体感できます。

NPO・市民活動を紹介する冊子の発行等情報提供しています。

### 当法人のネットワークで、いろいろな分野をつなげます！

市民活動と企業、店舗、学校などと連携することで、強みを活かした活動につながります。



編集後記 kirari vol.3発行に向けて6月上旬に編集会議を持った矢先、大阪北部地震が発生しました。

幸い箕面市は甚大な被害はなかったのですが、それでも箕面市災害ボランティアセンターが設置された期間に101件のボランティアの依頼があり、述べ110人のボランティアが活動されました。＊依頼の多くは一人暮らしの高齢者や障害者の方からで、日頃からニーズを把握しておくことがいかに大切かを浮き彫りにする形になりました。平常時の市民活動のつながりを災害時にどれだけ活かせるのか、今後の大きな課題と感じています。

＊箕面市社会福祉協議会ボランティアセンターからの報告